

楽園王からの手紙

初めての方には初めまして。こんにちは。
いつもいつもの方には、いつも本当にありがとうございます。
久しぶりの方がいらっしやいましたら、どうもお久しぶりです、お元気でしたか？ こちらは相変わらずです。
どうも、楽園王の長堀です。

こんなご挨拶から始まるこのお手紙も、郵便でダイレクトメールを出さなくなってきた為、書く機会も減ってきました。旗揚げからずっと、こんな感じのお手紙を公演ごとに出してきたのに。31年目の、新春のお手紙です。

この世界とどう折り合いをつけるか、ずっと考えてきた。それはコロナ禍以前もそうだったし、現在は仕方なくもっと真剣です。折り合いをつけなきゃならない理由、と言おうか原因ですが、世界に問題がある！と糾弾するほど厚かましくはありません。問題はいつだって自分自身の側にもあった。世界が荒野で、活躍するには準備が整っていないとしても、そこで生きるだけの知覚とセンスと行動力を身に付けりゃいいだけ、まだまだ勉強が足らんと身に詰まされる日々で。

これはこれで、正直な気持ちです。本当に。昔去ったある人の顔が思い出される。最後に見た表情は、落胆だったか、絶望だったか、それとも慰めだったか。まあ、どう受け取ってもポジティブとは言い難い。グサッて来るやつ。笑って話してるけど本当は笑ってない。でも、さらに記憶を遡れば、笑顔が絶えなかった。そこには希望があったし、未来があったし、だから、期待に応えられなかった数年が今でも悔やまれる。でもね、それを正直受け止められないほど幼きゃないけど。これは、一般論だが、一度ひっくり返ったものは戻らない。名誉挽回の努力も、汚名返上の努力も、空回りすることを歴史は教えてくれている。去った者は去ったのだ。もう一度言うよ。去った者は去った。

って話を、真面目に聴いてくれてありがとう。いや、ぜんぜん、嘘は言ってない。でも、実は、でも、すみません、ひっくり返せると思っているのです。ひっくり返せないものもひっくり返せる。演劇の話です。演劇でなら、起こせる奇跡があると思ってきたのだ。この歳まで。31年目だが、まだまだこれからだって。もっと出来るって。まるで恋物語でも話しているみたいだったけど、劇場に、観客席に足を運んでくれた沢山の視線の話。あるいは、係わってくれた仲間の話でもある。まだ戯曲は百も書いてないし、演出していない古典も山ほどある。そして、残された時間も、これは受け止め方の問題だけど、まだまだ随分あるって思うの。やりたいことをやり、やり残したことをやり、やるべきことにも着手する。それくらいはやろう。あらためまして、どうかよろしく願いいたします。

演劇はひとりでは出来ないの、周囲を巻き込みます。昔は、本当心から、ごめんね、許してね、って言っていた。今も言うかも。でも本当は、正直、巻き込まれるやつは巻き込まれたらいいのでは、って思っている。ひゃー。もうさ、諦めてくれって。それでいいでしょ、って。その上で、よろしくって思っている。

2022年、新春、年頭のご挨拶に何か書こうと思って、こんなお手紙を書きました。届いて欲しい人に届いたらいいなあ。強いメッセージ。思いの強さで理屈を越えてやる。今年も公演頑張ります。劇場にてお会いしましょう。まずは、2月の銀河鉄道の夜から。公演、実現したい。倍工夫して、実現に向けて。

楽園王、長堀博士、記